

地域課題の解決に向けた取組

林業のコスト縮減に向けて～低コスト作業の普及～

網走南部森林管理署

1 はじめに

網走南部森林管理署は森林資源の豊富なオホーツク管内にあり、当署を含む網走東部流域の人工林の面積は約15万haで、その多くが高齢級となり、木材として利用される時期を迎えています。古くから木材の生産が活発な地域ですが、民有林では伐採された跡地に造林されない場所もあり、その解消が課題となっています。

人工林の主伐が増加することが見込まれる中、伐採後の造林を確実に進めていくため伐採・搬出・造林等の林業全体の効率化・低コスト化を進めていく必要があります。

2 これまでの取組

当署では平成29年9月に伐採から造林までを一体的に行う「一貫作業システム」に初めて取り組み、国有林の実行箇所でも民有林関係者を対象に現地検討会を実施しました。

現地検討会では作業の流れやメリット等を説明し、伐採・地拵を終えた後にコンテ

ナ苗を植栽している現地で見聞交換を行いました。また、参加者を対象にアンケートを実施し、メリットや改善点等の把握を行いました。



平成29年度に実施した現地検討会

3 今年度の取組

昨年度に引き続き一貫作業を実施した同じ場所で1年後の経過を踏まえた現地検討会を11月に実施しました。コンテナ苗は秋期の植栽であったこともあり、活着率は98～100%と良好な結果でした。また、大型機械で地拵を行ったことから今年度の下刈を省略した結果、部分的には笹などの植生が苗木の高さを超えるまでにな

って来年度は下刈が必要な状況でありました。



植栽後の現地(平成29年)



1年経過後(平成30年)

現地検討会ではこれまでの実施状況を踏まえて現地で説明し、関係者と活発な意見交換を行いました。管内での取組事例がまだ少ない一貫作業ですが、実行した現地がどう推移していくかに参加者の関心が集中していました。

4 取組の成果・課題

これまでの取組については、市町村との林政連絡会議や市町村森林整備計画実行管理推進チーム等で民有林関係者に情報提供するなど、民有林と情報を共有しながら連携を深めています。

平成30年度にオホーツク管内の民有林においても一部で一貫作業システムが実施されるなど効率化・低コスト化への普及が進んでいます。また、地域では林業従事者の不足が課題となっており効率化・低コスト化と合わせて軽労化・省力化の重要性も高まっています。

5 今後に向けて

国有林での取組の成果などを現地検討会や各種会議等を通じて積極的に民有林関係者へ発信し、地域への普及に努め、引き続き林業の低コスト化による主伐・再造林の推進や林業従事者確保に向けた軽労化・省力化など地域林業の課題解決に取り組んでいきたいと考えています。